

2024（令和6）年さけます来遊状況（第4報：11/30現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2021年級）、4年魚（2020年級）および5年魚（2019年級）は前年および平年を下回る
- 北海道太平洋側では4年魚が平年の29%で1994（平成6）年以降で4番目に少なく、北海道日本海側では5年魚が平年の38%で1994（平成6）年以降で4番目に少ない
- 本州太平洋側、本州日本海側とも4年魚は1994（平成6）以降で2番目に少なく、3年魚と5年魚は最も少ない
- サケの平均重量は北海道で2.96kg、本州で2.83kgとなり、1994年以降で北海道は2番目、本州は3番目に小さい

*1：平年とは、1994（平成6） - 2023（令和5）年の平均値

・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢組成の途中経過をもとに、11月30日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2020年級）が全体の75%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が18%を占めました。前年同期との比較では、4年魚は83%、5年魚は72%と前年を下回っています（図1）。平年同期との比較では、4年魚は50%と下回っており、1994（平成6）年以降で5番目に少ない状況です。同じく5年魚は20%と下回っており、1994（平成6）年以降で3番目に少ない状況です。

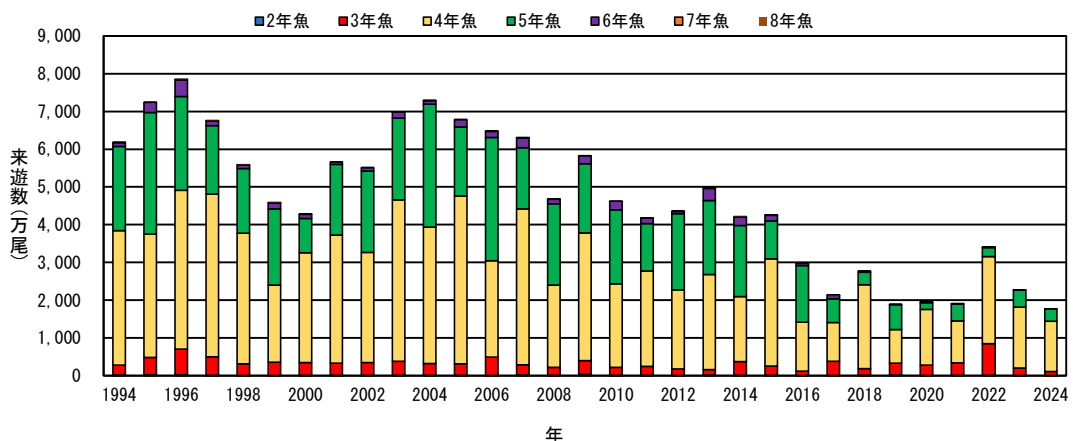


図1. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2020年級）が全体の76%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が14%、3年魚（2021年級）が10%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の66%、平年同期の39%、4年魚は前年同期の105%、平年同期の29%、5年魚は前年同期の100%、平年同期の9%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となっています（図2）。

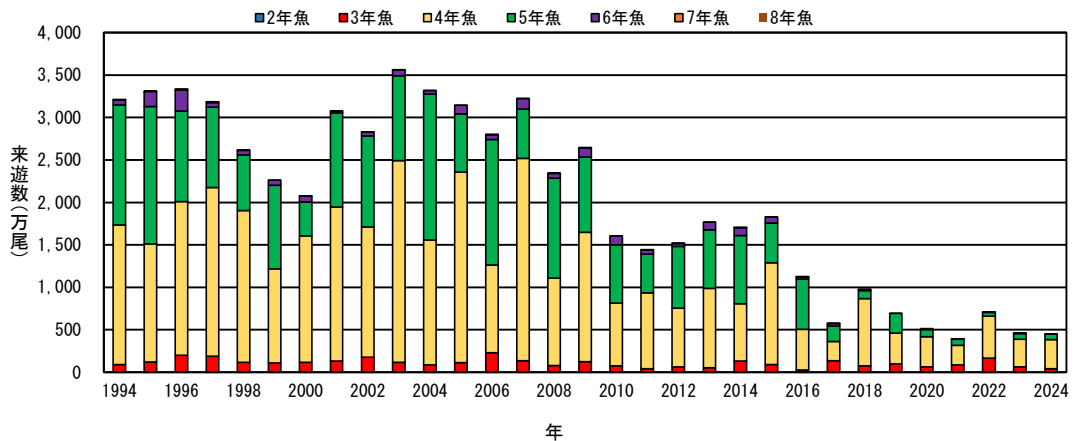


図2. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の32%の水準となっています。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の29%の水準となっています（図3）。

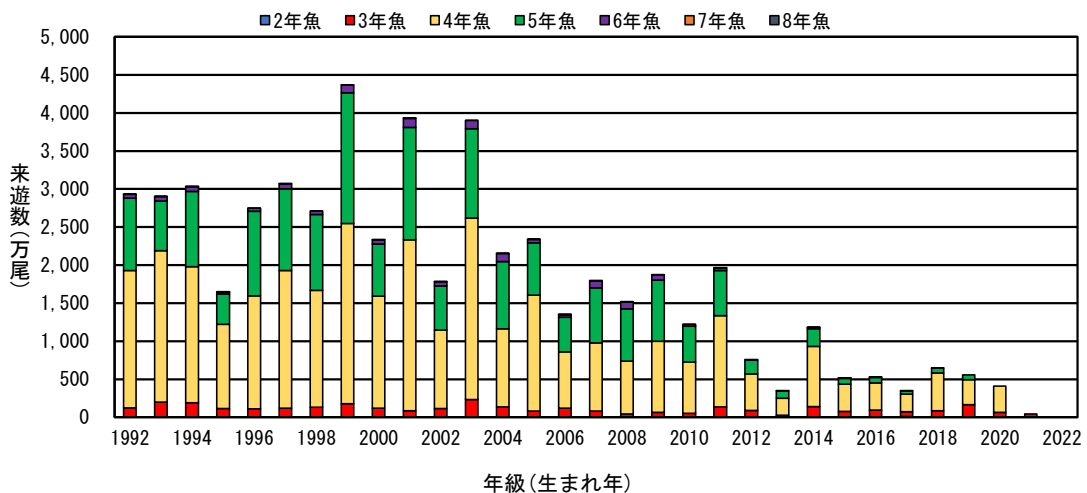


図3. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2020年級）が全体の75%を占めて最も多く、次いで5年魚（2019年級）が20%、3年魚（2021年級）が5%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の46%、平年同期の48%、4年魚は前年同期の77%、平年同期の92%、5年魚は前年同期の68%、平年同期の38%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で4番目に少ない値となっています（図4）。

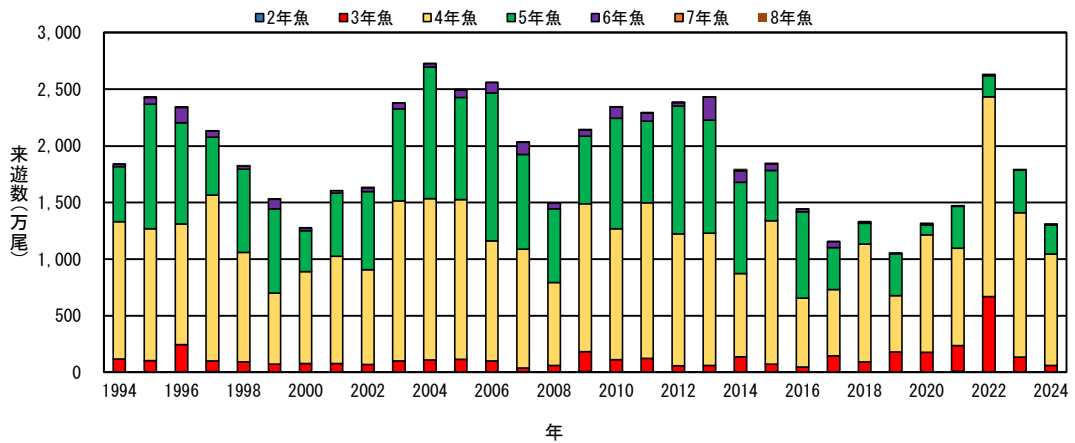


図4. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の94%の水準となっています。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の121%の水準となっています（図5）。

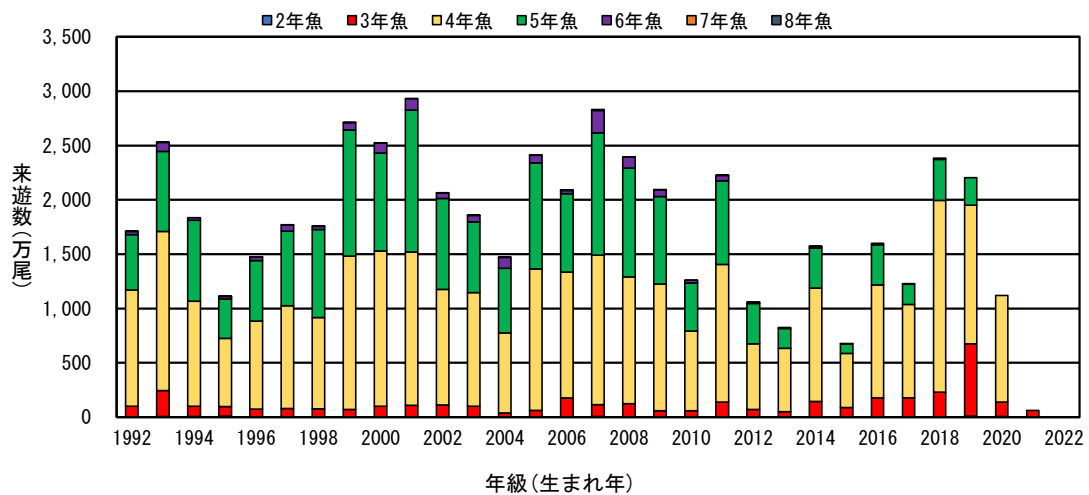


図5. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2020年級)が全体の63%を占めて最も多く、次いで3年魚(2021年級)が31%、5年魚(2019年級)が6%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の67%、平年同期の2%、4年魚は前年同期の138%、平年同期の1%、5年魚は前年同期の21%、平年同期の0.1%となっており、4年魚は1994(平成6)年以降で2番目に少なく、3年魚、5年魚は最も少ない値となっています(図6aおよび図6b)。

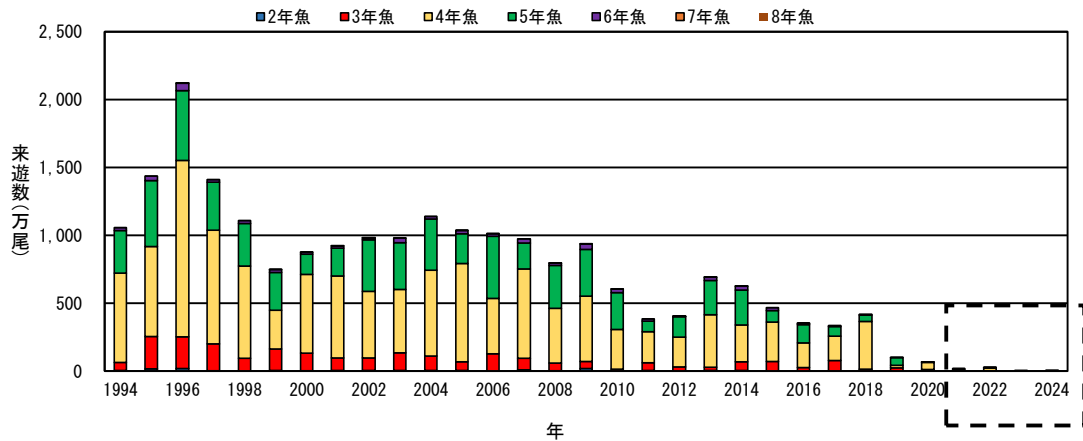


図 6a. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

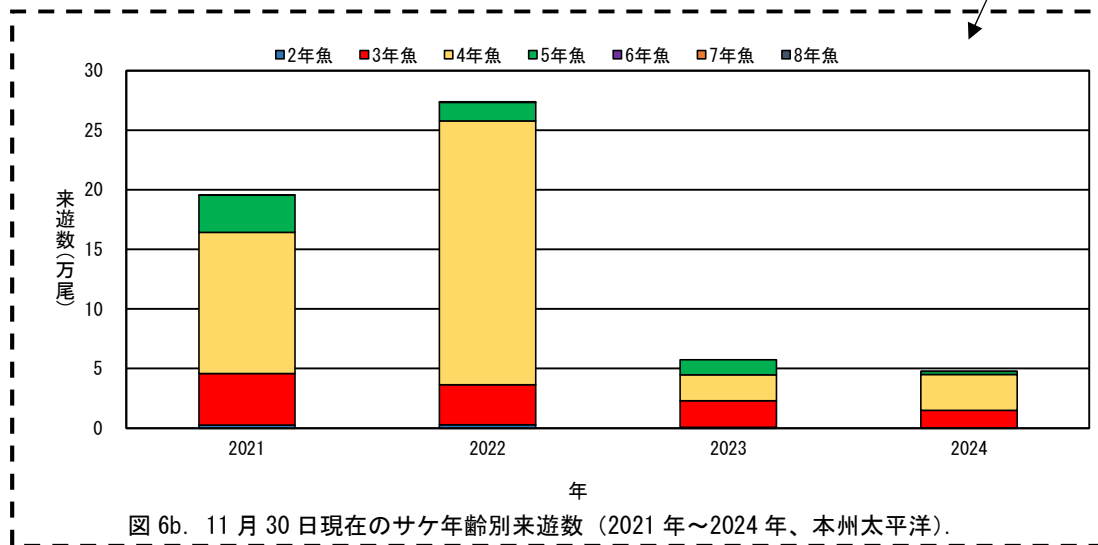


図 6b. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数(2021年~2024年、本州太平洋).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992~2019年級の平均の1.1%の水準となっています。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992~2018年級の平均の0.9%の水準となっています(図7aおよび図7b)。

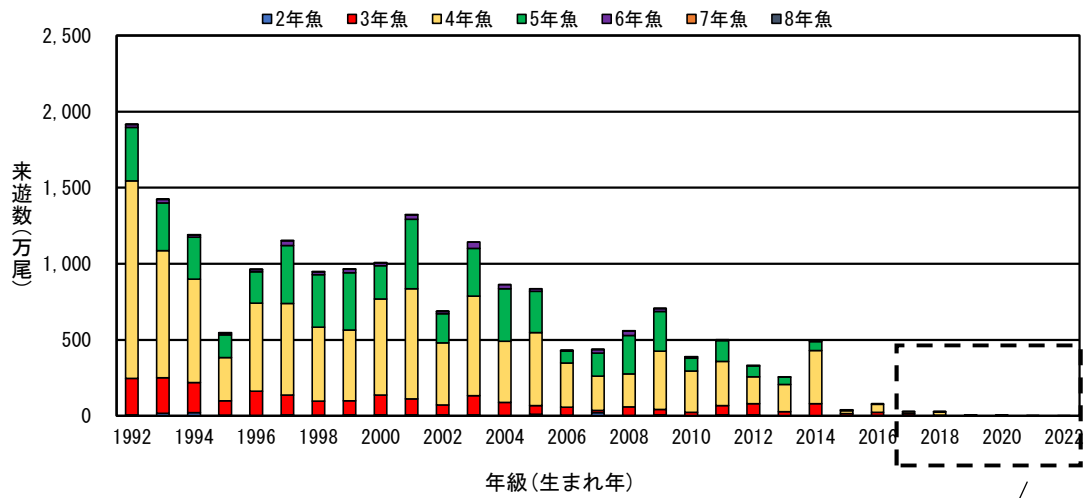


図 7a. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

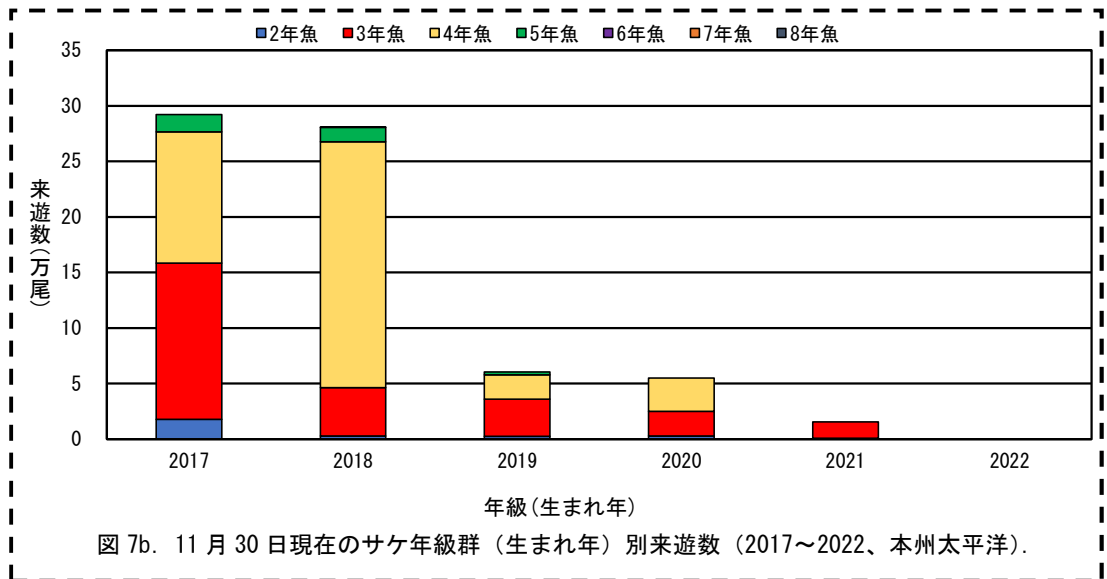


図 7b. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2017~2022、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2020年級）が全体の69%を占めて最も多く、次いで3年魚（2021年級）が27%、5年魚（2019年級）が4%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の42%、平年同期の17%、4年魚は前年同期の103%、平年同期の17%、5年魚は前年同期の20%、平年同期の3%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少なく、3年魚、5年魚は最も少ない値となっています（図8）。

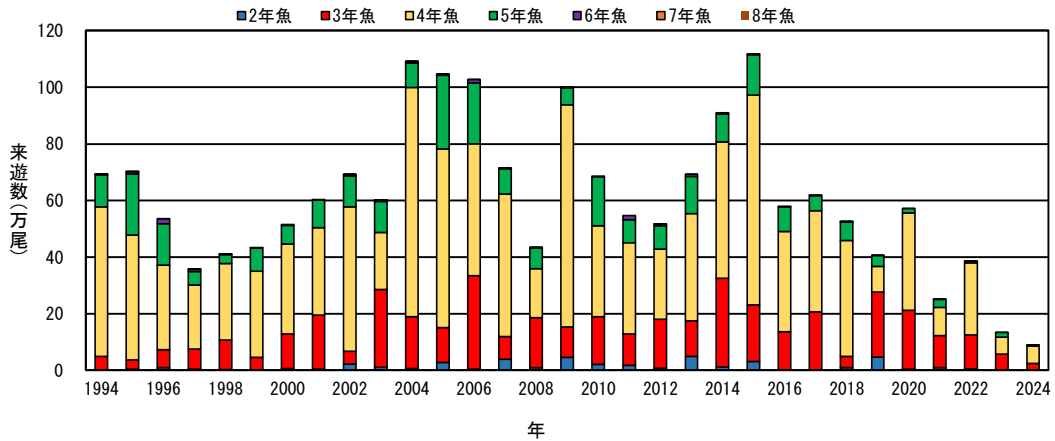


図8. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2020年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2019年級の平均の24%の水準となっています。また、今年の5年魚である2019年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2018年級の平均の31%の水準となっています（図9）。

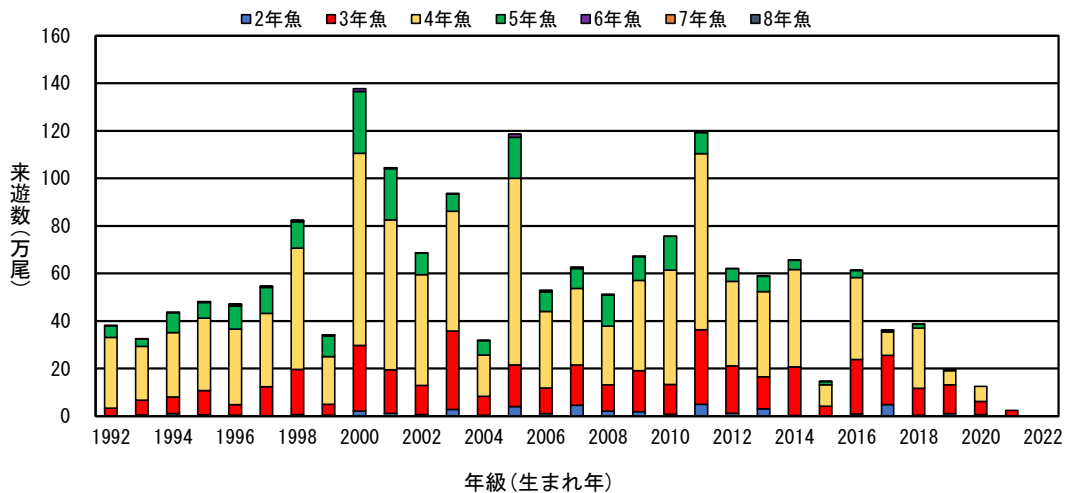


図9. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ
(北海道)

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（漁獲数と漁獲重量から算出）は 2.96kg であり、前年同期の平均重量 3.02kg を下回り、1994（平成 6）年以降で 2 番目に小さい値となっています（図 10）。

また、北海道の主要河川に 11 月 30 日現在までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長は 64.8 cm であり、前年同期の平均尾叉長 66.0 cm よりも小さく、1994（平成 6）年以降で 4 番目に小さい値となっています（図 11）。

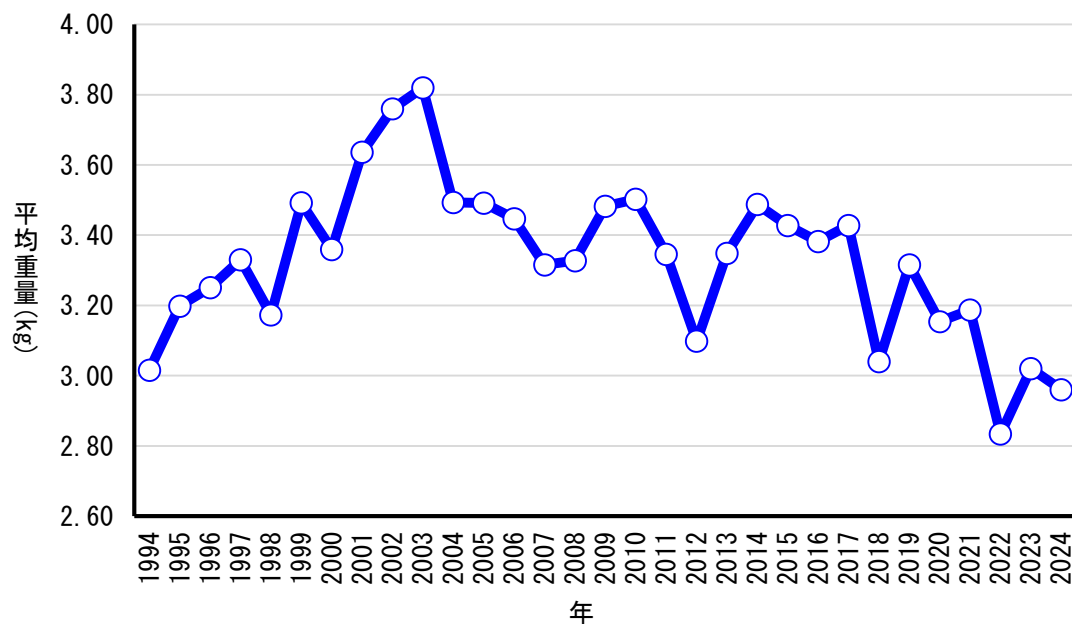


図 10. 11 月 30 日現在のサケ平均重量 (北海道).

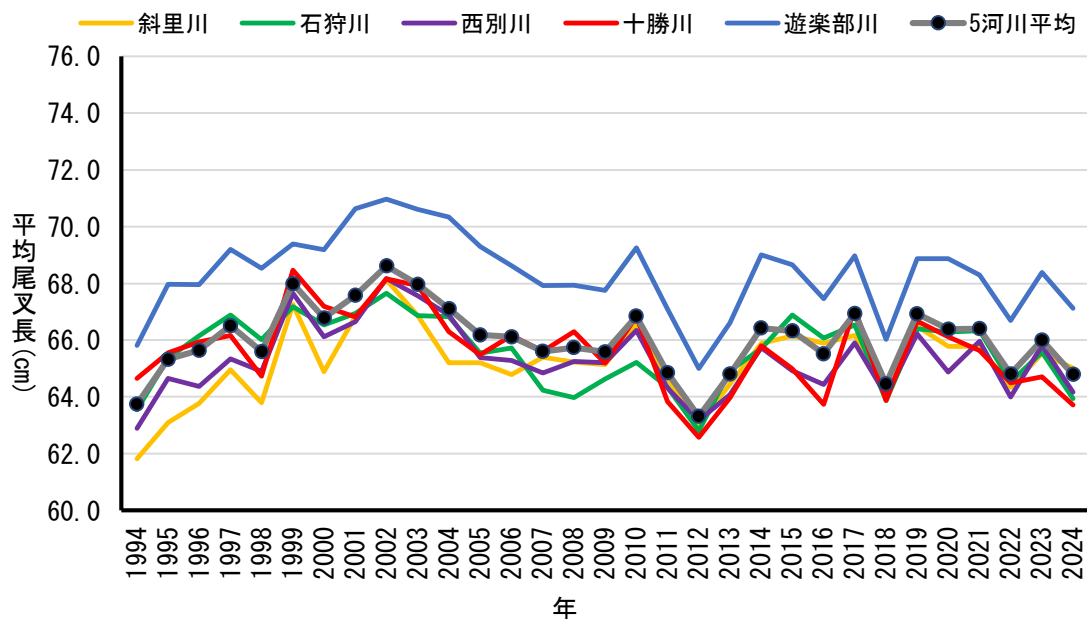


図 11. 11 月 30 日現在の北海道主要河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における11月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.83kgであり、前年同期の平均重量2.91kgを下回り、1994(平成6)年以降で3番目に小さい値となっています(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に11月30日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾又長はそれぞれ67.5cm、68.3cmであり、前年同期の平均尾又長67.3cm、68.9cmと津軽石川は前年並みですが、月光川は小さくなっています(図13)。

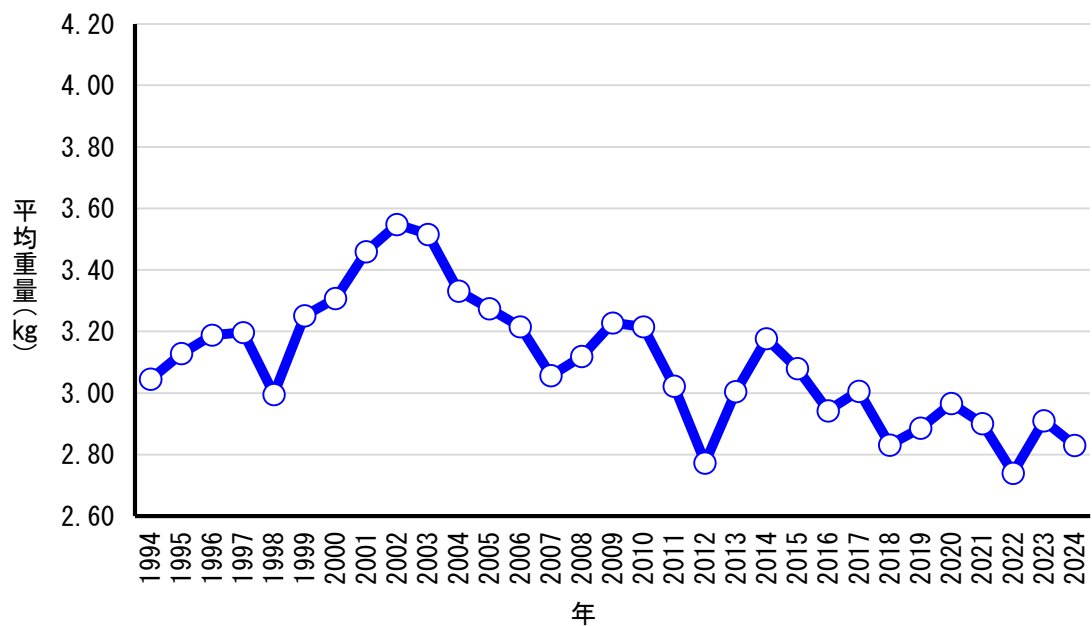


図12. 11月30日現在のサケ平均重量(本州)。

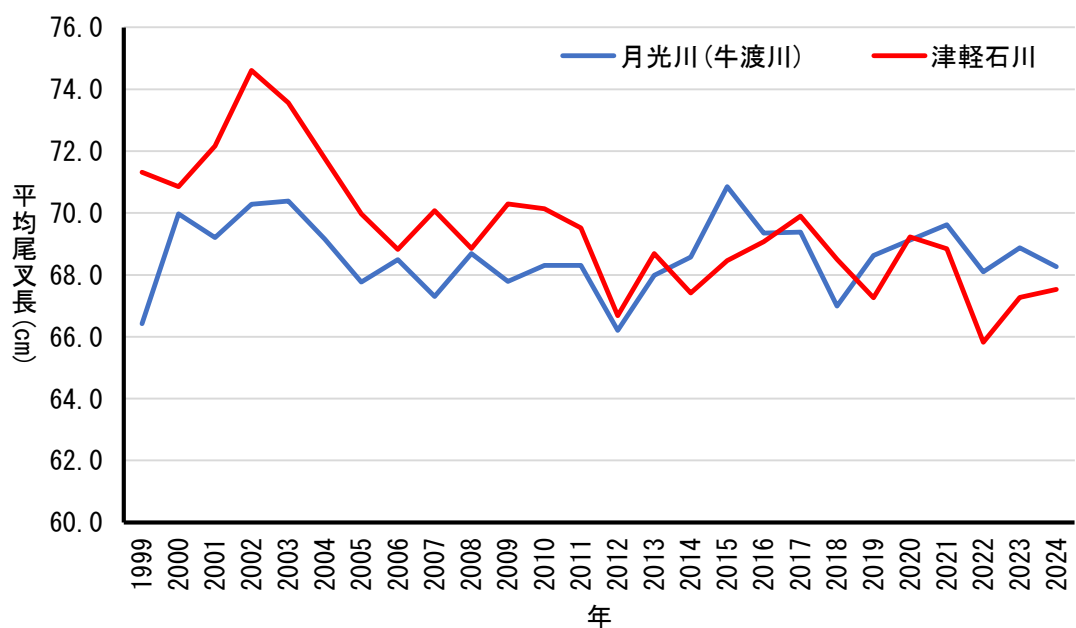


図13. 11月30日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾又長。